立川市中央図書館　赤ちゃんサロン

絵本を楽しもう

＜目的＞　０・１才児の読み聞かせは、絵本を間にして親子で気持ちを通じ合わせること

絵本は最後まで読まなくてもいいし、開いたページだけでもかまいません。赤ちゃんは絵本を見ていなくても、人の声に包まれるのが心地よいのです。できるだけ、静かな環境で楽しみましょう。

＜特徴・言葉＞　０・１才児は、絵本の言葉の響きと絵をシンプルに楽しむ

赤ちゃん絵本には擬音語・擬態語が多く使われています。リズミカルで響きのよい言葉を耳から、鮮やかな色や形を目から、抱っこしてもらうぬくもりとともに赤ちゃんは五感を使って感じることを楽しみます。

『ごぶごぶごぼごぼ』　駒形克己/作　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）
『がちゃがちゃどんどん』　元永定正/作　福音館書店（幼児絵本シリーズ）

＜絵＞　０・１才児は、色や形がはっきりしている絵が見やすい

０・１才児は視力がまだ弱いため、コントラストが大きく色や形がはっきりしている絵が見やすいのです。また、実物と認識できるリアリティがある絵が描かれている絵本を選ぶと良いでしょう。

『くだもの』　平山和子/作　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『もうおきるかな？』　まつのまさこ/文　やぶうちまさゆき/絵　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）

＜内容＞　赤ちゃんの生活にそった身近なものや遊びがでてくる絵本を楽しむ

知っている物が絵本の中にあれば、赤ちゃんは興味を持って絵本を楽しむことができます。まずは、見開き２ページで完結し、繰り返しが多いシンプルな内容の絵本からはじめましょう。

『じゃあじゃあびりびり』『ばいばい』　まついのりこ/作　偕成社（まついのりこあかちゃんのほん）
『くつくつあるけ』『きゅっきゅっきゅっ』『おててがでたよ』　林明子/作　福音館書店（くつくつあるけのほん）

＜読み方＞　０・１才児の絵本の読み聞かせのコツは、親子で楽しむこと

０・１才児は歌を歌ったり、わらべうたで遊ぶので十分ですが、絵本で遊んでもらうのは楽しい体験です。赤ちゃんは絵本を見ながら読む声にじっと耳を傾け、読み手の顔を見て、また絵本を見ます。赤ちゃんとおもちゃで遊ぶ時のように、絵本の世界へ誘い込むように読んであげましょう。

『でてこいでてこい』　林明子/作　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）

＜読み方＞　赤ちゃんのリズムに合わせてゆっくり読みましょう

子どもは同じことを繰り返し行う中で、ゆっくり成長していきます。赤ちゃんは繰り返しが多い絵本を好み、繰り返しが少しづつ変化することを楽しみます。

0才児

＜特徴＞　赤ちゃんは顔が大好き

０才児はまずお母さんとの関係を作り、さらに周りの人へと関係が広がる時期です。目と目を合わせて、人との信頼関係を作ります。

『いないいないばあ』　松谷みよ子/文　瀬川康男/絵　童心社（松谷みよ子赤ちゃんの本）
『まるてん　いろてん』　中辻悦子/作　福音館書店　（０．１．２．えほんシリーズ）
『ママだいすき』　まどみちお/著　ましませつこ/絵　こぐま社

＜読み方＞　絵本から感じる赤ちゃんの気持ちを、言葉にしてあげましょう。

０才児は、「美味しいね」「オムツが濡れて、気持ちが悪かったね」など、自分の気持ちに共感してもらうだけで安心します。赤ちゃんは、読み手の大人と共感して生まれる一体感がとても嬉しいのです。

＜特徴＞　絵本を噛む、舐める、めくる

赤ちゃんは噛んだり舐めたりしながら、絵本を物として認識していきます。ファーストブックは、赤ちゃんが噛んでもいいボードブックが向いています。指が動かせるようになると、ページをめくることを楽しみ、さらに、めくった後にでてくる絵を楽しみます。成長とともに絵本の内容そのものを楽しむようになります。歩けるようになれば、絵本よりも歩くことを楽しむでしょう。赤ちゃんが読みたくない気持ちの時に、読み聞かせを無理強いするのはやめておきましょう。

1才児から

＜特徴＞　指差しは言葉のはじまり一親子で同じ物を見る一

絵本の読み手と同じ物を見て共感する言葉のやりとりから、言葉へのイメージができます。

＜読み方＞　自然や人と触れ合う実体験を重ねると、絵本がもっと楽しくなる

毎日の生活やお散歩などで知った物を、絵本を読むことで知識を深め、さらに生活の中でも活かせるようになります。自然や人と触れ合う実体験は、子どもの感性を豊かに育てます。

『がたんごとんがたんごとん』　安西水丸/作　福音館書店
『おつきさまこんばんは』　林明子/作　福音館書店　（福音館赤ちゃんの絵本）

＜１才後半＞　２才近くになると、短いストーリー絵本を楽しむ

先の予測ができるようになるため、ページをめくった後の展開を予測して楽しむようになります。

『ぞうくんのさんぽ』　なかのひろたか/作　なかのまさたか/レタリング　福音館書店

『わたしのワンピース』　にしまきかやこ/作　こぐま社

＜２才＞　「うさこちゃん」「こぐまちゃん」が出てくるシリーズ絵本は、子どもの成長にぴたりと寄り添う

２才になると、いろんな感情が出てきます。絵本の主人公の行動や気持ちを理解することは、自分自身を知ることにつながります。また、子どもは絵本から自分の気持ちに合う言葉を見つけたりします。

『しろくまちゃんのほっとけーき』　『こぐまちゃんおはよう』　森比左志他/著　わだよしおみ/著　若山憲/絵　こぐま社（こぐまちゃんえほんシリーズ）

『うさこちゃんとゆうえんち』　デイック・ブルーナ/作　福音館書店（うさこちゃんの絵本）

＜３才＞　想像力が発達するとともに、主人公と一体になって絵本の世界で冒険をする

子どもは静かに絵本を聞くようになり、絵本は間接的な体験になります。

『ちいさなねこ』　石井桃子/作　横内襄/絵　福音館書店

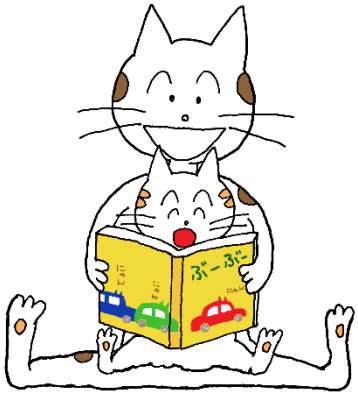
『どろんこハリー』　ジーン・ジオン/作　マーガレット・ブロイ・グレアム/絵　わたなべしげお/訳　福音館書店

＜絵本の選び方＞　ロングセラー絵本から、はじめてみましょう

成長途中にある子どもは、大人とは違う視点で絵本を読んでいます。子どもの目線でいい絵本を選ぶには、ある程度絵本の知識が必要です。ロングセラー絵本は、時代も国も超えてたくさんの子どもたちに支持されてきた質の良い絵本ばかりです。子どもに向けて誠実に作られた絵本は、子どもの成長を助けてくれます。

＜まとめ＞　絵本の読み聞かせから本への信頼感を、言葉は考える力を育てる

子どもは読み聞かせの楽しさの中から本に親しみを感じ、本への信頼感を持ちます。絵本を通して親子で共感した楽しい体験は言葉の土台を作り、言葉は人として考える力を育ててくれます。



0才児・1才児向き絵本のリスト

歌やわらべうたの絵本

『赤ちゃんのわらべうたあそび』 久津摩英子/著　チャイルド本社
『あかちゃんのごきげんがよくなる１２のわらべうたえほん』 小林衛己子/編　あべななえ/絵　ハッピーオウル社
『お母さんがすぐにうたえる１２のねかせうたえほん』 小林衛己子/編　おおいじゅんこ/絵　ハッピーオウル社
『あがりめ　さがりめ』 ましませつこ/絵　こぐま社
『うたえほん　１～３』 つちだよしはる/絵　グランまま社
『いないいないばあ』 松谷みよ子/文　瀬川康男/絵　童心社（松谷みよ子赤ちゃんの本）
『まてまてまて』『ととけっこうよがあけた』『せんべせんべやけた』『どんどんばしわたれ』『ちびすけどっこい』
こばやしえみこ/案　ましませつこ/絵　こぐま社（わらべうたえほんシリーズ）

音やリズムを楽しむ絵本

『おおきいちいさい』 元永定正/作　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）
『かさ　さしてあげるね』 はせがわせつこ/文　にしまきかやこ/絵　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）
『がちゃがちゃどんどん』『ころころころ』 元永定正/作　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『くっついた』『なーらんだ』 三浦太郎/作・絵　こぐま社
『ごぶごぶごぼごぼ』 駒形克己/作　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）
『じゃあじゃあびりびり』『ばいばい』 まついのりこ/作　偕成社（まついのりこあかちゃんのほん）
『てんてんてん』 わかやましずこ/作　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）
『ぴょーん』 まつおかたつひで/作・絵　ポプラ社
『もこもこもこ』 谷川俊太郎/作　元永定正/絵　　文研出版

顔の絵本

『いいおかお』 松谷みよ子/文　瀬川康男/絵　童心社（松谷みよ子赤ちゃんの本）
『かおかおどんなかお』 柳原良平/作・絵　こぐま社
『まるてん　いろてん』 中辻悦子/作　福音館書店　（０．１．２．えほんシリーズ）

食べ物の絵本

『おいしいよ』 かんざわとしこ/文　ましませつこ/絵　こぐま社
『おべんとう』『サンドイッチサンドイッチ』 小西英子/作　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『くだもの』『いちご』 平山和子/作　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『おにぎり』 平山英三/文　平山和子/絵　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『はらぺこあおむし』 エリック・カール/作　もりひさし/訳　偕成社

おやすみの絵本

『おじょらぽん』 はせがわせつこ/文　さいとうとしゆき/絵　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）
『もうねんね』 松谷みよ子/文　瀬川康男/絵　童心社（松谷みよ子赤ちゃんの本）

動物の絵本

『いぬがいっぱい』『ねこがいっぱい』 グレース・スカール/作　やぶきみちこ/訳　福音館書店
『どうぶつのおかあさん』 小森厚/文　薮内正幸/絵　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『どうぶつのおやこ』 薮内正幸/画　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『どうやって　ねるのかな？』『なにの　こどもかな？』 薮内正幸/文・絵　福音館書店
『もうおきるかな？』 まつのまさこ/文　やぶうちまさゆき/絵　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）

乗り物の絵本

『がたんごとんがたんごとん』『がたんごとんがたんごとんざぶんざぶん』 安西水丸/作　福音館書店
『ずかん・じどうしゃ』 山本忠敬/作　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『でんしゃ』 バイロン・バートン/作　こじままもる/訳　金の星社
『ぶーぶーぶー』 こかぜさち/作　わきさかかつじ/絵　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）
『ぶーぶーじどうしゃ』 山本忠敬/作　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）

身の回りの生活を描いた絵本

『おててがでたよ』『きゅっ　きゅっ　きゅっ』『くつくつあるけ』 林明子/作　福音館書店（くつくつあるけのほん）
『おはよう』 なかがわゆりこ/さく　やまわきゆりこ/え　グランまま社

会話のやりとりを楽しむ絵本

『うずらちゃんのかくれんぼ』 きもとももこ/作　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『きんぎょが　にげた』 五味太郎/文・絵　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『たまごのあかちゃん』 かんざわとしこ/ぶん　やぎゅうげんいちろう/え　福音館書店（幼児絵本シリーズ）
『でてこいでてこい』 はやしあきこ/さく　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）
『ママだいすき！』 まどみちお/著　ましませつこ/絵　こぐま社

短いストーリー絵本

『おつきさまこんばんは』 林明子/作　福音館書店　（福音館赤ちゃんの絵本）
『ひよこさん』 征矢清/作　林明子/絵　福音館書店（０．１．２．えほんシリーズ）

動物が主人公の絵本シリーズ

『うさこちゃんとどうぶつえん』『うさこちゃんとゆうえんち』ほか
デイック・ブルーナ/作　福音館書店（うさこちゃんの絵本シリーズ）
『おふろだおふろだ』『どうすればいいのかな』ほか
わたなべしげお/文　おおともやすお/絵　福音館書店　（くまくんの絵本シリーズ）
『しろくまちゃんのホットケーキ』『こぐまちゃんおはよう』 ほか
　森比左志/[ほか]文　わかやまけん/絵　こぐま社（こぐまちゃんえほんシリーズ）

2才児・3才児向き絵本リスト

『あおくんときいろちゃん』 レオ・レオーニ/作　藤田圭雄/訳　至光社
『いたずらこねこ』 バーナディン・クック/文　レミイ・シャーリップ/絵　間崎ルリ子/訳　福音館書店
『おかあさんだいすき』 マージョリー・フラック/作　光吉夏弥/訳　岩波書店
『おんなじおんなじ』『なにしてる　なにしてる』 多田ヒロシ/作　こぐま社
『かばくん』 岸田衿子/文　中谷千代子/絵　福音館書店
『ぐりとぐら』 中川李枝子/文　大村百合子/絵　福音館書店
『こすずめのぼうけん』 ルース・エインズワース/作　堀内誠一/画　石井桃子/訳　福音館書店
『しゅっぱつしんこう！』 山本忠敬/作　福音館書店　（幼児絵本シリーズ）
『ぞうくんのさんぽ』 なかのひろたか/作　なかのまさたか/レタリング　福音館書店
『ちいさなねこ』 石井桃子/作　横内襄/絵　福音館書店
『ちいさなヒッポ』 マーシャ・ブラウン/作　うちだりさこ/訳　偕成社」
『どろんこハリー』 ジーン・ジオン/作　マーガレット・ブロイ・グレアム/絵　わたなべしげお/訳　福音館書店
『わたしのワンピース』 にしまきかやこ/作　こぐま社

昔話絵本

『おおかみと七ひきのこやぎ』グリム童話　フェリクス・ホフマン/絵　せたていじ/訳　福音館書店
『おおきなかぶ』 A．トルストイ/再話　内田莉沙子/訳　佐藤忠良/画　福音館書店
『おだんごぱん』ロシア民話　脇田和/絵　瀬田貞二/訳　福音館書店
『三びきのやぎのがらがらどん』北欧民話　マーシャ・ブラウン/絵　せたていじ/訳　福音館書店
『てぶくろ』ウクライナ民話　エウゲニー・M・ラチョフ/絵　うちだりさこ/訳　福音館書店
『ふくろにいれられたおとこのこ』 山口智子/再話　堀内誠一/画　福音館書店